

第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名

コミュニケーションの取り方を見直そう

2 題材について

本題材は、「平成20年版中学校学習指導要領 特別活動」学級活動の内容(2)「適応と成長及び健康安全」の項目「オ 望ましい人間関係の確立」とする。スマホをはじめ、インターネットツールの普及率はすさまじく、淀江中学校の生徒もアンケート結果によると9割を超える生徒が何らかのインターネット機器を持っており、多くの生徒が利用している。これらの機器は、使い方を誤ると日常生活に支障が出たり、友人関係のトラブルや、時には犯罪に巻き込まれたりする危険性がある。そのため、子どもの年齢に応じた「情報モラル」指導が必要である。「情報モラル」の必要性を考えた場合、その要因となり、児童生徒の多くが実際に抱えている問題点は次の3点である。①(インターネットやゲームなどに)依存する。②相手とのやり取りで問題を起こす。③自分が被害に遭う。(「情報化社会の新たな問題を考えるための教材指導の手引」より)これらの3つの問題に照らし合わせて、どの視点で指導するかを考えて取り組むことが必要である。今回は、LINE社と静岡大学教育学部が共同開発した教材をもとに「LINE中に起こりそうなトラブル」を題材として扱う。中学生がLINEを代表とされるSNS等により友人間でトラブルを起こす事象は年々増加している。それは、本校でも同じことが言え、すでにSNSを使用している生徒、これから使用しようと考えている生徒にも実際に自分の身にも起こりうる問題として考えさせるためにこの題材を設定した。

本学級の生徒(男子13名、女子14名)のうち、LINEを使っている生徒は65%おり、家族や友だち、他学年の生徒ともつながって利用を楽しんでいる。自分専用で使えるインターネットにつながる機器(パソコン、タブレット等)を81%の生徒が所持しており、今後もLINE利用率は増えてくると考えられる。また、LINE使用状況についても、今年6月のアンケート結果では「家族の間でインターネットの使用時間、ルールを見直した。」「グループの既読は気を付けていきたいと思った。」「学習してからはLINEをする時間が減った。」という意見がある一方で、「夜遅くにコメントがあがっていて、朝起きて見てビックリした。」という意見もあり、自分本位にSNSを使っている生徒もいるという現状がある。

指導にあたっては、実際に起こりそうなLINEでの会話場面を設定し、自分や相手のことを考えることを重点にしたい。LINEのようなSNSでのトラブルは、インターネットの特性である文字だけで交わされる会話による誤解や、相手の顔が見えないが故に感情が伝わりにくいことから始まる。相手との認識の違いを意識した対応に加え、相手の立場も考えて、どのようにコミュニケーションをとったらよいかを考えさせたい。また、「明日の朝には学校で出会う」ということも想像させることで、より現実感を持たせ思考の深化を図りたい。本題材で扱われているようなトラブルが自分にも起こりうる事を意識させ、自身の行動についてより主体的に考えられるよう取り組ませたい。

3 ねらい

SNSでコミュニケーションを行う際に生じる相手との「ちがひ」や「誤解」に気づき、自分の考えや気持ちをどのように相手に伝えたらよいのかを考えることができる。

人権教育の視点で育てたい資質・能力

【C-7】(自他の情報を大切にするとともに、情報社会でのルールやマナーを守ろうとする)

他者との関わりを通して、自分と他者との考え方や感じ方のちがひや、ネット上での誤解の生まれやすさに気づき、それを踏まえた上で、よりよいSNSの利用をしようとしている。

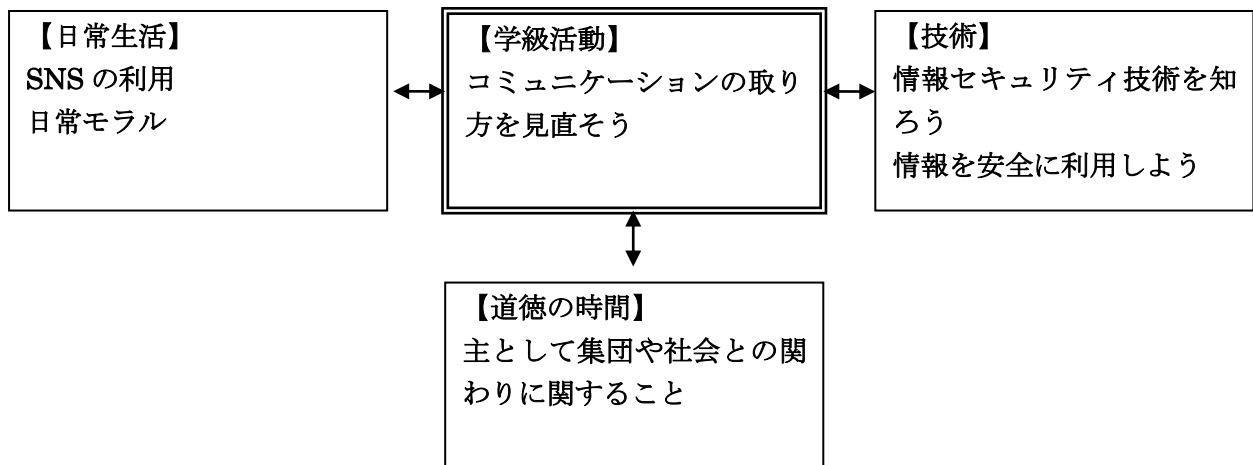
4 題材の評価規準

A 集団活動や生活への 関心・意欲・態度	B 集団の社会の一員としての 思考・判断・実践	C 集団活動や生活についての 知識・理解
SNS等のトラブルを自分のこととして考え、望ましいSNSの利用方法について考えることができる。	SNSの利用は自分を含めた多くの人に影響を与えることを意識し、日常モラルとインターネットの特性の両面から、望ましいSNSの利用方法を考え、判断し、実践しようとすることができる。	インターネットの特性により起こりうるトラブルの原因を知るとともに、望ましいSNSの利用には日常モラルとインターネットの特性の両面から自分や相手のことも考える必要があることを理解できる。

5 指導と評価の計画

	指導内容	◆ねらい ○学習活動	評価規準	評価方法
事前	インターネットの利用に関する生徒の実態把握をする。	◆実態を把握し、問題提起の材料とする。	A	アンケート
本時	日常モラルとインターネットの特性を合わせて考え、望ましいSNSの利用をする。	◆自身のSNSの利用について振り返り、これからどのようにSNSを利用していきべきかを考えさせる。 ○トラブルの原因を考える。 ○望ましいSNSの利用方法について考え、意見を共有する。	ABC	発表 ワークシート

6 教科・領域・日常生活との関連



7 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点 (◇)	めざす生徒の姿 (★) と評価方法
導入	1 お互いの考え方の「ちがいがい」を感じる。	◇お互いの考え方には「ちがいがい」があることを感じ、本時の学習につなげる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて：画面の向こうの相手のことを考えて、ネットを使おう！</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本時の流れ 1. めあての確認 2. 話し合い 3. 発表 4. まとめ </div>
	2 具体的な事例を元に適切な対応はどうすればよいかを話し合う。	◇LINE未経験者にも分かるよう丁寧に説明する。 ◇話を続けたがっている相手の気持ちを考えさせ、相手の気持ちに寄り添うような思考につなげる。	
展開	①「今回の宿題むずかしくない？」への対応	◇会話を終わらせるような返事を考えさせる。	★自分が気を付けるべきことについて、日常モラルとSNSの特性を合わせて考えることができる。 【思考・判断・表現】(発表・ワークシート)
	②「話すのイヤなの？ムカつく！」への対応	◇会話を続けようとする相手との考え方の「ちがいがい」を意識した返事を考えさせる。	
3 自分や相手の立場に立って、どんなことが大切かを考える。	◇自分がどちらの立場にもなり得ることを気づかせ、相手のことを考えたら、どんなことに気をつけたり、意識することが大切なのかを考えさせる。		
4 これから自分が気をつけることをまとめる。	◇「明日の朝にはLINEではなく学校で出会う」ということを想像させて思考の深化をはかる。		
まとめ	自分と他者との考え方や感じ方のちがいや、ネット上での誤解の生まれやすさに気づき、それを踏まえた上で、よりよいSNSの利用をしようとしている。【C-7】		